第10巻　第3号（通号113号）　　発行日2026年10月30日（不定期）

HP：https://rakuno.org/

同窓会通信 －野幌だより－

酪農学園同窓会ニュースレター

高校・短大・大学　同窓生関連の最近の話題

トピック（スケジュール）

10月11日　大学アーチェリー部同窓会
10月11日　附属高校1987年度同期会
10月11日　獣医17期40周年同期会
10月11日　獣医学類1期10周年同期会
10月13日　短大Ⅱコース12期同期会
10月15日　獣医学科11期同期会
10月17日　山岳部OB会
10月19日　機農酪経6期生同期会
10月21日　肉製品ゼミ8,9期同窓会
10月28日　獣医学科7期生同期会
11月01日　獣医解剖学同門会
11月02日　短大７８４の会
11月04日　短大Ⅱコース６期同期会
11月07日　短大Ⅱコース13期同期会
11月10日　短大１８期生同期会
11月10日　獣医学科４期生同期会
11月11日　短大Ⅱコース９期同期会
11月14日　道南地区同窓会
11月14日　東北地区福島県支部総会
11月14日　中国地区鳥取県支部総会
11月14日　食品科学15期20周年同期会
11月28日　獣医宮城県支部研修会
12月05日　九州地区全体総会in佐賀



初雪の精農寮

目次：

アーチェリー部同窓会（50周年）	1
三愛賞受賞祝賀会報告	2
獣医学科１１期生同期会報告	2
ひとつ屋根の下同期会	3
機農酪農経営科５期生同期会	3
獣医学科１４期生同期会報告	3
獣医学科２７期生３０周年同期会	4
編集後記	4

酪農学園大学アーチェリー部同窓会（50周年）報告



令和8年10月11日（日）上記同窓会を開催しました。街がセピア色に染まる17:30、北海道から九州までの同窓生24名がサンミケーレ銀座（ホテルモントレラ・スールギンザ）に集いました。

ほとんどの参加者が卒業以来の再会であり、開会前から話に花が咲き、定刻になっても始めることができないほど熱気に包まれていました。あらかじめ用意していたボードは各自が持ち寄った学生時代の思い出の写真ですぐに埋め尽くされ、その前では歓声があり、またアルバムを持参した方を囲んで写真を奪い合うように眺めながら、笑顔の絶えないまさにセピア色のひとときを過ごすことができました。

一次会は軍司君（84年入部）の絶妙な進行のもと、最後は「酪農讃歌」と「エール」の当時を彷彿させる組み合わせで締めくくられ無事終了しました。二次会にも17名が参加し、その後も宴は続き、なんと始発で帰宅した強者もいたようです。

当クラブは1976年創部で、今年は50周年の節目にあたります。10周年、20周年記念式典以来、同窓会は開催されていませんでしたが、昨年柏岡さん（84年入部）の祝賀会で数名が顔を会わせたことをきっかけに、大野さん（82年入部）が中心となり50周年に向け同窓会を開催しようということになりました。限られた時間の中、LINEでの繋がりを頼りにご案内する形となりましたが、多くの同窓生にご参加いただき心より感謝申し上げます。

新たな半世紀に向けた一歩として、来年は北海道での開催が約束されました。今回参加できなかった方々も含め、さらに多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

なお大学同窓会からの助成金は、イベント記念品および参加記念品（酪農学園オリジナル乳製品と100周年記念カラーチャーム）購入の一部に充てさせていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。　　（文責　84年入部　小野山）

酪農学園同窓会の現況(卒業生数)2026.04.01

２０２５年度　累計卒業生数

大学院　計	１，８１２名
大　学　計	３５，５４４名
短　大　計	９，４８７名
高　校　計	２２，５８４名
合　計　計	６９，４２７名
酪農義塾 計	３０３名
酪農学校 計	＊９１，５１７名

＊　出典酪農学園史２巻より

総合計　１６１，２４７名

地区支部の設置状況（　）は未設置

北海道１区：石狩　３支部（１）(江別)
北海道２区：道央　６支部（２）(空知1)(胆振2)
北海道３区：道南　５支部（２）(後志1)(後志2)
北海道４区：道北　６支部（１）(留萌1)
北海道５区：道東　６支部（０）　２６支部（6)

東北地区　：　６支部（０）
関東甲信越地区：１０支部（０）
中部地区：　７支部（０）
近畿地区：　６支部（０）
中国地区：　５支部（０））
四国地区：　４支部（０）

同窓会開催報告

獣医同窓会会長賞「三愛賞」授賞祝賀会報告



2026年10月9日（金）、札幌ガーデンパレスホテルにて、獣医26期卒業の梅原健治先生（有限会社ベッセル 代表）の第21回酪農学園大学獣医同窓会会長賞「三愛賞」授賞祝賀会が盛大に開催されました。

梅原先生は、酪農学科を卒業後に会社勤務を経たのち、獣医学科へ編入。在学中から社会貢献に尽力されてきました。卒業後は会社を設立し、豚熱や高病原性鳥インフルエンザへの対応、乳房炎対策など、畜産現場に広く活用される多くの衛生・防除製品の開発を手掛け、国内のみならず海外の畜産業界にも多大な貢献を果たされてきました。この多大なる功績が称えられ、今回の授賞となりました。

当日は開会1時間前からロビーが人であふれかえるほどの盛況ぶりで、遠く韓国や九州からの参列をはじめ、酪農学園関係者、学長をはじめとする教職員の皆様、アジア酪農交流会、創成寮、酪農学科・獣医学科の同窓生、感染防除に尽力される家畜保健衛生所の先生方、仕入れ先・販売先・得意先の皆様、そして生産者の皆様など、多方面から多数の出席を賜りました。また、会場には北海道庁や養豚生産者協会、各乳業工場からのスタンド花や祝電が数多く寄せられました。

祝賀会は、第3回授賞者である旭山動物園総園長の坂東元先生からのビデオメッセージで幕を開け、推薦人代表である1期卒業の鶴林先生から授賞の経緯が報告されました。その中では、故人の10期卒業の元理事長・谷山先生もこの授賞を大いに喜ばれていたことが伝えられました。続いて1期卒業の野村先生による乾杯の音頭で歓談が始まり、学長、家畜保健衛生所、生産者代表、仕入れ先代表の皆様から心温まるスピーチをいただきました。

宴中には、有限会社ベッセルの設立から今日に至る歩みの動画上映や、映画に携わられたエピソード、講演会での「製品開発のよもやばなし」などが披露され、梅原先生の歩んでこられた情熱的な道のりを振り返る貴重な時間となりました。
終盤には社員代表からの挨拶、そして梅原先生から奥様への花束贈呈が行われ、9期卒業の北海道獣医師会副会長・阿部先生による締めの挨拶をもって一堂が万雷の拍手に包まれました。

最後は加藤先生の指揮のもと、出席者が肩を組み合って「酪農讃歌」を大合唱し、熱気と感動のなかで閉会いたしました。加藤先生が「これほど数多くの参列者が集まったのは、ひとえに梅原先生の深い交流と人脈の賜物であり、酪農学園関係者以外にも酪農讃歌が広く知れ渡った素晴らしい盛会であった」と評された通り、梅原先生のお人柄と功績を映し出す、極めて意義深く温かい祝賀会となりました。　　（発起人代表 ）

獣医学科11期生卒業48周年記念同期会

“大人の修学旅行in愛知”
（2026年10月15日～10月16日）
酪農学園大学獣医学科11期生卒業48周年記念同期会


2026年10月15日 酪農学園大学獣医学科11期生卒業48周年同期会 木曽川昼鵜飼

今回は“大人の修学旅行”と題し、名古屋とその周辺地域の文化と歴史を訪ね、この地域特有の「食」を味わい、国内で最も製造業の盛んな土地としての魅力を垣間見て頂きたく企画致しました。

10月15日（木曜日）

天候にも恵まれ、朝9時の開門を待って名古屋城内に入り本丸御殿などをめぐりました。名古屋城は尾張徳川家61万石の居城です。1610年（慶長１５年）に徳川家康の命で名古屋城の築城が始まり1616年（元和2年）に初代尾張藩主として、家康の九男である義直（よしなお）が入城しました。天守閣は現在修復中なので登ることができませんが、本丸御殿は2009年から修復工事が進められ、2018年6月から全面公開されました。きれいに復元された天井絵、襖絵などとても素晴らしく一見に値するものでした。その後城内の「金シャチ横丁」で名古屋名物を味わい、次の訪問地犬山へと向かいました。

犬山では国宝犬山城を見上げながら、日本では珍しい木曽川の昼鵜飼を堪能しました。時間に余裕があったので、犬山城天守閣まで急階段を落ちないように必死に登りました。よくこんな急勾配の階段を昔の武士たちは上り下りしていたのだと感心もし同情もしました。この天守閣は現存する日本最古の木造天守で国宝に指定されています。天守閣の外には手すり付きの廊下（廻縁）があり、北に木曽川や対岸の美濃国（岐阜県）、南に濃尾平野を望む360度のパノラマ絶景を楽しむ事が出来ました。

この地で宿をとり、ライトアップされた犬山城を見ながら総会を開き、夕食を楽しみながら近況を語らい親睦を深め、和やかなうちに閉会しました。最後に皆で酪農讃歌を合唱し楽しいひと時もあっという間に過ぎていきました。

10月16日（金曜日）

朝はゆったりと時間を取って愛知ドビーに向かいました。　向う途中水位差のある堀川と中川運河を船で航行できるよう1930年（昭和5年）に建設された松重閘門を近くで鑑賞しました。今は使われていませんが、かつては名古屋の水運を支えたものです。現在松重閘門は名古屋市の有形文化財、都市景観重要工作物に指定されています。午後は無水ホウロウ鍋で有名な愛知ドビーを見学、無水ホウロウ鍋の制作工程の説明を受け、その後愛知ドビーの調理器具を使い調理室で料理にも挑戦しました。

同級生とする調理実習は学生時代の講義の後の実習を思い出させてくれました。その後全員で試食しました。昼食は併設されたレストランで無水鍋を使用して作られたカレーライスを美味しくいただきました。楽しい時間を過ごした友との別れを惜しみつつ名古屋駅に向かいました。卒業後48年となり齢（よわい）70歳を超えて毎年元気で会えるのも感慨無量です。

毎年物故者が一人一人と増えています。学生時代には何かある（死亡する）とは考えもしませんでした。林真理子の言う“70代は神様から与えられた特別な時間”なのですね。その「特別な時間」を大切に過ごしていきたいと思います。毎年同期会に参加でき、また今後一人でも参加者が増える事を願って筆をおきます。
（幹事　齋藤正則　安田宗弘　SV竹花一成）

同窓会開催報告

ひとつ屋根の下（附属高校1987卒）同窓会報告



10月11日（日）午後6時から大麻の「認定こども園ゆめのみ保育園」を会場にして「ひとつ屋根の下同窓会を開催し、２１名が全国各地から参加しました。

会は野会長の挨拶で始まり、大学の入学者数、高校の入学者数の傾向や新牛舎建設の話題や前回訪問した青森同窓会の話をしていただきました。先生方と昔話で盛り上がり、時間となり会を閉じました。

（幹事：波田　英貴、工藤　修一、津久井　秀輝）
（文責　上野　秀樹）

ssssss

〒069-8501
北海道江別市文京台緑町582
酪農学園同窓会
電話 011(386)1196
FAX 011(386)5987
Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.

酪農学園同窓会

酪農学園100周年記念寄付事業

創立100周年記念寄付事業
2024ホームカミングデー チャリティTシャツ募金

2,000円で購入いただくTシャツの一部が募金になります。
Tシャツ原価を引いた1,000円程度が
学校法人酪農学園 創立100周年事業への寄付になります。



Tシャツの色：ネイビー
左胸ワンポイント
・背中A4サイズ程度（白プリント）
※画像はイメージです。実際の生地の色やデザインが変わることがあります。

募集要項(7月よりホームページにて全文公開)
1. 募金の名称 創立100周年記念事業募金
2. 募金の目的・使途
施設の大規模改修・再編
(1) 大学：研究・実習施設の整備・新設、事務管理棟の集約化など
(2) 高校：基本方針として、現有施設を活用し続けるための計画的改修など
(3) 附属施設：旧精農寮保存のための改修、馬術部施設の移転・新設、研修館周りのインフラ整備など

問合せ先：事務局財務課　011-388-4148（寄付担当）



酪農学園大学
ブランドマークとキャッチフレーズ

**生きるを学ぶ。
学びが生きる。**

獣医学科第２７期卒後３０周年同期会開催報告



卒業から30年の月日が流れました。学生時代に言葉を交わした記憶がない友人とも、「同期」という強い絆で繋がっていることを再確認できた素晴らしい時間となりました。当日は27期卒業生61名、恩師7名が集い、盛大な会となりました。私たちの代は元気があり余り、当時は心配された世代でしたが、それぞれが立派な社会人として活躍している姿が印象的でした。

一方で、出席を希望しながらも、闘病により断念せざるを得なかった仲間が3名いたことは大変残念でなりません。私たちも体調を崩しがちな年齢を迎え、10年後にまた全員が元気な姿で会えるとは限らないのが現実です。

そうした背景や「もっと頻繁に」「北海道以外でも」という要望を受け、次回は2年後に沖縄で開催することが決定いたしました。台風や観光シーズンを避けた時期での開催を目指します。事務局は、美ら海水族館附属動物病院院長の植田啓一くんが引き受けてくれました。皆でお手伝いをしながら、ぜひ実現させましょう。なお、その次は関東または関西での開催を計画しています。

今回は同期会の前に酪農学園大学B棟に集まり、中央館の屋上からの眺望を楽しんだほか、懐かしいゼミ室の見学も行いました。ゼミ室が附属動物病院へ移動していたり、100年記念の塔がなくなっていたりと、変化に驚きつつ附属動物病院へ。現地では、山下和人先生が丁寧に案内をしてくださいました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

27期の皆様のさらなるご活躍と、酪農学園大学のますますの発展を心より祈念いたします。　（文責　川添　敏弘）

編集後記

今年も残すところ、あとひと月になりました。大雨や台風、地震等の天変地異の多い年でした。

大きな話題としては、附属高校硬式野球部が地区予選を勝ち抜き、全道大会で準優勝という快挙でした。優勝すると選抜大会での甲子園出場が待っていましたが残念でした。甲子園出場を目標に頑張ってほしいと思います。

「リラの花咲くけものみち」の続編も好評で、大変反響があり大学の知名度UPにもなっているように感じます。

１０月、１１月は暑い夏を避けての同期会等が数多く開催されています。部活やゼミ、同期会、地区支部等々

文中にもありましたが「７０代は神様から与えられた特別の時間」とのこと、７０代の皆さん、林真理子さんの言葉どおり与えれた特別の時間で、残された人生を謳歌しましょう。